
帰去来

シン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

帰去来

【Nコード】

N5935Z

【作者名】

シン

【あらすじ】

ハロウィンの日、学生時代から嫌いだった厭な男、ビルから『失恋した』という電話がかかって来た。

彼は酒を煽り、時には涙を零しながら、その失恋話を延々と続ける。カボチャや魔女が犇めき合い、お菓子が山と積まれる部屋で。

ハロウィンの今日、ビルはその子と逢う約束をしていたのだ。それなのに、その子は来なかった。

だけどぼくは、ビルの失恋話を笑う気には、なれなかった。

なぜなら……。

失恋？

学生時代から、厭な奴だった。

愛称、ビルは、ニューヨーク・イングランド地方の名家の御曹司で、名門私立高校から東部名門八大学の一校に進学した真正正銘のヤツピアイビーリーグで、地域社会で敬われていた彼は、自らがこの国を動かしている、とさえ思っていたのだ。

ワスプ WASP (White Anglo Saxon Protestant) と呼ばれる彼のような一部の白人が全てそうだ、という訳ではないが、好んで付き合いたい、と思える人種では、なかった。

傲慢で、厭味で、貧乏人など見下し、そのくせ、ほごじ施しだけはきっちりとする。

教会にも通っている。

そういう名家の御曹司としてのスタイルが、彼には生まれながらに染み付いていたのだ。

アメリカの多くの地方では、彼のような名家の御曹司が実力者として慕われるが、このニューヨークではそうは行かない。ここでは、本物の実力者でなければ、相手にされないのだ。

だが、まずいことに、アイビー・リーグで四年間の学部を終了し、大学院で修士号まで得た彼は、その本物の実力さえ持ち合わせていた。

ニューヨークで成功したのだ。

それでも、彼を慕う者はいなかった。

結果、彼は、故郷での人々に敬われる生活を望み、地元から自分の言うことを利くイエス・マンを呼び集めた。その取り巻きたちを側に置き、我が物顔で振る舞い始めたのだ。

今では、彼のことを「ビル」と親しみを込めて呼ぶ人間は、その取り巻きたちだけになっている。他の者は、彼の正式名、ウィリア

ムで呼び　いや、そのファースト・ネームで呼ばれている分には、まだいい。厭味のセンスを持つ人間なら、彼のラスト・ネームにサ－の称号をつけて呼ぶだろう。もちろん、彼がその称号に相応しい人間だ、という意味ではなく、全く別の意味で。

ぼくは、彼をビルと呼ぶ取り巻きの一人だった。

従兄弟である、といえば、まだ体裁がいいが、実際には、大学へ行くために彼の父親に資金を援助してもらった、という、一歩下がらざるを得ない立場である。

ビルもぼくも、互いに今年、三十歳になる。

そんな折り、ビルから一本の電話がかかって来た。　いや、その話をする前に、彼のここ二ヶ月間の様子を付け加えて置かなければならないだろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5935z/>

帰去来

2011年12月19日21時46分発行